

市川衛 造形インタラクティブ展

平面による
インタラクティブ・コミュニケーション
の試み

コンセプトと作品解説

2009年9月25日－10月9日

大阪芸術大学 情報芸術センター

アートホール回廊ギャラリー

造形インタラクティブの世界の探究

1980年代半ばにインタラクティブアートを先駆的に始めた時から一貫して、私には独自のインタラクティブ・コミュニケーションへの思いと確信があった。インタラクティブ性の本質的な意味は機械系が外部情報を情報処理することではなく、人間の作品への主体的な関与や体験を通じて鑑賞者自らが創造行為や行動を企てる可能性を有する人間を主体としたコミュニケーションであると考えてきた。こうしたコンセプトを核としてインタラクティブアートの理論を『インタラクティブアート宣言』として1994年に発表し、四半世紀に及ぶ独自のインタラクティブアートの探究を続けてきた。

新たな表現の可能性を探求しようとする強い思いから、私の従来の作品制作はコンピュータやエレクトロニクスなどの最新テクノロジーを利用した視覚と聴覚が融合するインタラクティブ作品が中心であったが、ここ数年は作品形態に変化が生じてきた。インタラクティブなコミュニケーションとは鑑賞する個々の人間の中に生起する主体的な体験であるという考えを徹底すれば、コンピュータやセンサーなどのテクノロジーはひとつの表現手段に過ぎないのであって、必ずしも電子的・機械的なテクノロジーは必要条件ではない。そうした確信が自己の作品制作にも反映されるようになり、テクノロジーの力からアナログ的な造形の力をより多くコミュニケーションの手段として用いるようになっていった。

このような表現の進化の中で2007年からはインタラクティブ・コミュニケーションを造形的な力のみで可能とする純粋な造形作品の可能性を探求するようになった。作品というモノの中に美を閉じ込めたり完結させようとするという意識を捨て去り、鑑賞者が作品と継続する対話の中で生まれる体験や創造行為こそが真の作品となりうることを信じつつ、平面と立体の造形表現を探求した。そして、2009年には造形的手段のみによるインタラクティブ・コミュニケーションを行う造形インタラクティブというコンセプトにたどりついた。今回の展示では造形インタラクティブの探究の成果として、平面の絵画表現による最初の作品群を紹介する。

鑑賞者という存在なしには成立することのない芸術とは、広い意味ではすべてインタラクティブアートだともいえるが、真のインタラクティブ・コミュニケーションに近づくためには、新たな美意識や表現手法が必要となるだろう。

芸術に限らず人間が見ている世界というものには「見えているものが見ているもののすべてではない」という真理がある。「見えるものの向こうにあるもの」を作品との対話を通じて個々人が感じ取るような体験が創造される世界を私は常に意識して制作してきた。

こうしたコンセプトの確立に最も参考となったのは日本文化の伝統であった。「茶の湯という芸術の本質が形のないもてなしのこころにあること」「あるものから別のものを見て楽しむという日本独特の見立ての文化」「もののおわれを感じるアフォーダンスに敏感な日本人的感性」「自然や神と共生して生きる日本の生活様式」など枚挙にいとまがない。

優れた日本庭園が電子的テクノロジーなどを一切利用しなくとも、季節・風景・風土などと関連させながら緻密なコミュニケーションを成立させる場を提供していることを理解すれば、どんなコンピュータプログラムもかなわないインタラクティブな体験を可能にするプログラムがそこに組み込まれていることを発見するだろう。このように日本文化の伝統の深層にインタラクティブ文化が脈々と流れていることを私は確信した。

日本文化のコミュニケーションの伝統や西洋の現代美術のエッセンスを大いに参考にしつつ、今回は平面によるインタラクティブ・コミュニケーションをテーマとした 50 点余りの絵画作品の展示をした。





平面の造形によるインタラクティブ・コミュニケーションを可能とするため、いくつかの平面表現手法を工夫して用いた。「輪郭を明確にしない線や色の表現」「音楽的なリズム感の躍動感ある線の表現」「無意識から紡ぎ出した一筆書き的に生まれる線」「リズムやハーモニーを意識した色彩表現」「マスキング液による空白の線描画」などのさまざまな手法を駆使した。鑑賞者が参加する場や対話のための空白や間のある空間創造を意識しながら、独自の造形世界を試みた。

平成 21 年 9 月吉日 市川 衛

作品解説

[1] 単色のアクリル画の世界

単色だけを用いたアクリル画の世界4点。輪郭線を全く用いず、単色の色彩の微妙な変化と明度差をつけたテクスチャーを描くことにより、いくつかの世界や遠近法を内包する対話世界を創造した。

森の記憶 I (2009)	
	アクリル画 木製パネル M8 サイズ 緑のテクスチャーに何が見える？ 森の木なら何本？それとも木肌？ あるいは人影？それとも精霊？
森の記憶 II (2009)	
	アクリル画 布キャンバス M10 サイズ 緑のテクスチャーに何が見える？ 森の木なら何本？それとも木肌？ あるいは人影？それとも精霊？
青の記憶 I (2009)	
	アクリル画 布キャンバス M10 サイズ 青のテクスチャーに何が見える？ 森の木なら1本？2本？ 数本？木肌？ 近くで見れば水？
孤独の森の中で(2009)	
	アクリル画 布キャンバス M15 サイズ 深い青の森にたたずむ人影 彼の未来は如何に？

[2] シンプルな線と色のパステル画

直観的で音楽的なパステルの線と色彩のハーモニー。
無意識から紡いだ線によってつづられた図像たち。

ザウルス(2008)



パステル画 ホワイトワトソン紙 F6 サイズ

化石の恐竜を彷彿とさせるシンプルな線と形

舞うものたち(2008)



パステル画 ホワイトワトソン紙 F6 サイズ

カラフルに描いた舞い絡み合うものたち

流転転生(2008)



パステル画 クレスター紙 F8 サイズ

流転しうごめく生命たち

[3]「癒しのパステル画」シリーズ

即興的に音楽的に描いたボールペンの線と、リズム感と優しさのあるパステルによる彩色。自由で音楽的な一筆書きのような即興の線を描くために、なめらかな書き味のゲルインクのボールペンを用いた。

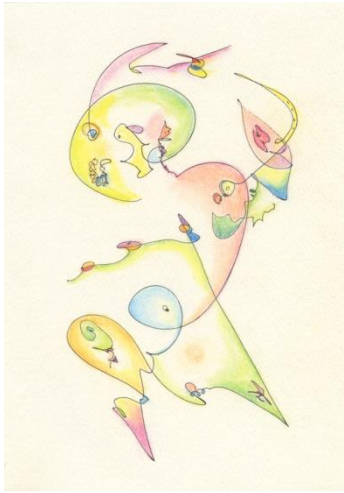

造形インタラクティブの理念に基づいて生まれる無限に広がる物語が終わりのない癒しの空間を見る者に与える。

現在これらの作品を作家自身の手によって忠実に再現した高品質の額装した特別オリジナルプリントを受注生産している。

<ポストカードサイズ作品 (100 mm×147 mm) >

		
<戯れ(2009)>	<勇気を出して(2009)>	<ボンジュール(2009)>
		
<オハヨウ(2009)>	<フェニックス(2009)>	

< SMサイズ作品 (158 mm×227 mm) >

		
<p><あそぼう (2009) ></p>	<p><ロンド (2009) ></p>	<p><テラの真実 (2009) ></p>
		
<p><あのね (2009) ></p>	<p><おもちゃの兵隊 (2009) ></p>	

[4] 顔へのアプローチその1 (カラー)

横顔の表現のアプローチ。



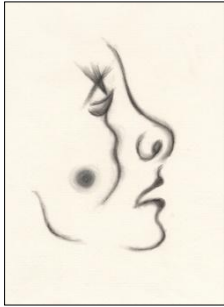

顔の輪郭を明確にしない、または仮面のような形とする抽象化をした。

Face on Stripe (2008)	
	アクリル画 布キャンバス F6 サイズ 3色のストライプの背景に仮面のような輪郭の女性の顔が浮遊する ストライプと平行でない流れの空気感またはこころの動き
Face on Red (2008)	
	アクリル画 キャンソン B5 サイズ 鮮やかな赤の背景に黄色の特徴的な顔立ちの女性の顔 赤の地を図に反転させると・・・
Face on Yellow (2008)	
	アクリル画 布キャンバス F6 サイズ 鮮やかな黄色の背景に女性の顔のパーツが浮遊する 黄色の地に何が見えるだろうか？
YOKOGAO 080731	
	パステル画 クレスター紙 F8 サイズ 数個の顔のパーツを単色で描いた女性の横顔 頬の部分の曲線は女性の体の形を連想させる 口は2つの形を2色で重ねて動を表現している

[5] 顔へのアプローチその2 (モノクロパステル画)

顔の輪郭を描かないモノクロの顔の表現へのアプローチ。

モノクロのパステルとゲルインク・ボールペンを単体または組み合わせて使用した。

Female Face 090425	
	<p>パステル画 クレスタ紙 F6 サイズ</p> <p>目・鼻・頬・口のパーツを特徴的に描いた女性の顔</p>
Female Face 090208	
	<p>パステル画 クレスタ紙 F6 サイズ</p> <p>アフリカ的な線の強さが特徴の女性の顔</p>
ピエロ 090718	
	<p>パステル画 クレスタ紙 F6 サイズ</p> <p>ボールペンとパステルの線で描いた横顔 顔の輪郭線を少な目に描いた</p>
泣く女 09072	
	<p>パステル画 クレスタ紙 F6 サイズ</p> <p>ボールペンとパステルの線で描いた泣く女の表情 顔の輪郭線は描いていない</p>

[6] 裸婦と花へのアプローチ

裸婦と女性性を象徴する花へのアプローチ。

大地の子 080731	
	パステル画 BB ケント紙 F6 サイズ 大地から誕生した人間のイメージ ボールペンとパステルによるドローイング
裸婦と花 (2008)	
	水彩画 クレスター紙 F8 サイズ パステルの線で描いた裸婦と花のイメージ 基本はモノクロだが、一箇所だけ赤を用いた
裸婦 090727	
	水彩画 ウォーターフォード紙 F8 サイズ ボールペンでシンプルな線で描いた裸婦に透明水彩の彩色を施した 体の曲線カーブを主軸に花への変容を描いた
花 0907272	
	水彩画 ウォーターフォード紙 F6 サイズ ボールペンで一気に描いたシンプルな花のイメージに透明水彩の彩色を施した

[7] 水や波へのアプローチ（水彩画）

ボールペンで一筆書きのように一気に描いた波紋のイメージに、透明水彩の彩色を施した3点の水彩画。

<p>水の戯れ 090805</p> 	<p>水彩画 モンバル・キャンソン紙 F6 サイズ</p> <p>有機的な波紋のイメージ 右に人のような図像が含まれている</p>
<p>生命（いのち）の群像 090819</p> 	<p>水彩画 モンバル・キャンソン紙 F8 サイズ</p> <p>波紋を重ねる水の中に育まれた小さな生命たち うごめきつつ共生する生命のイメージ</p>
<p>水の戯れ 090807</p> 	<p>水彩画 モンバル・キャンソン紙 F6 サイズ</p> <p>絡み合う波紋のイメージ 泳ぐ女性のイメージが隠されている</p>

[8] モノクロパステル画小品集

小型のモノクロのパステルドローイングを3～5枚組み合わせて額装した小品集。

モノクロパステル画小品集 1



モノクロパステル画小品集 2



モノクロパステル画小品集 3



モノクロパステル画小品集 4



[9] ポストカードサイズ小品集

ポストカードサイズのパステル画・水彩画・ドローイングなどを額装した小品集。
机の上に置ける形式の額装で統一した。





[10] 「TreeMan」シリーズ I

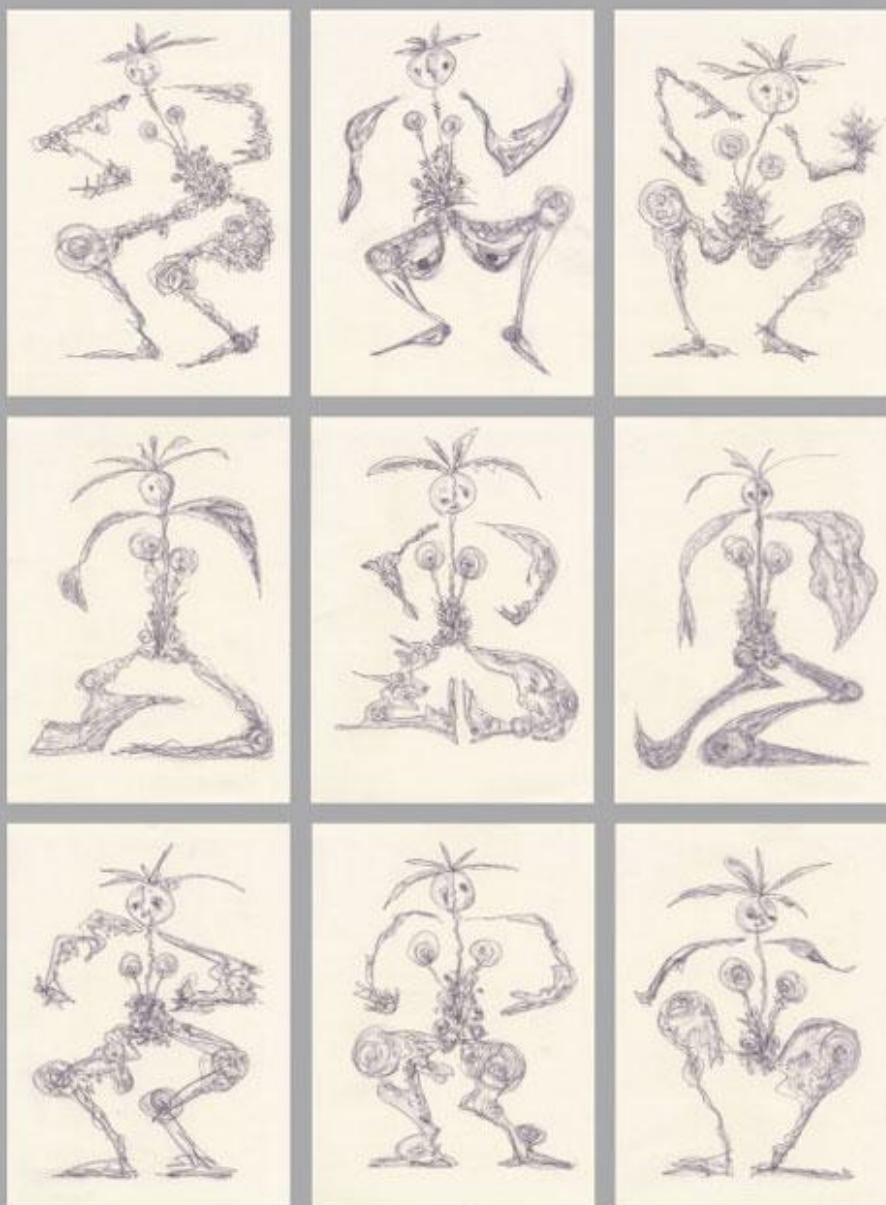
草木と一体化した人間のイメージを描いた。

人間が自然へと回帰し、地球という生命体と一体化していく感覚の喚起。

パステルドローイング 9 点（クレスター紙/F6 サイズ）を一行に展示。

9 作品を 3 行 3 列で配置したイメージのポスターも作成した。

Tree Man シリーズ I (2008-9)



TreeMan 081102 TreeMan 090302 TreeMan 0810181
TreeMan 080615 TreeMan 0808301 TreeMan 080615
TreeMan 0810182 TreeMan 080925 TreeMan 0808302